

令和 8 年度 職員採用案内



【若狭湾】ファミリーデー



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構





独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和

当機構は、我が国における「青少年教育の振興」及び「健全な青少年の育成」を図るための青少年教育政策の実施機関として、国立オリンピック記念青少年総合センター、国立青年の家、国立少年自然の家の3法人が統合し、平成18年4月に発足しました。全国各地にある山・川・海の自然あふれる27の地方施設と東京都にある国立オリンピック青少年総合センターを有し、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、科学・文化芸術・国際交流といった多様な体験活動の機会と場を提供しています。

世界的な猛威を振るった新型コロナウイルスも収束し、アフターコロナとなった現在、リアルでの体験活動の重要性は非常に高まっています。人工知能によって社会の価値観も大きく変容しつつあるなか、生きる力を育むリアルの体験はより価値を増していくと考えます。青少年を取り巻く環境が加速度的に変化する中で当機構が求められていることは、「誰一人取り残すことなく、すべての子供たちに良質な体験を提供すること」です。これまでの伝統を受け継ぎつつも社会の課題をしっかりと捉えニーズを掘り起こすために、当機構は多様な人々との協働によるオープンイノベーションを推進し、青少年教育の新たな価値を創造してまいります。

青少年教育のナショナルセンターとして我が国の青少年教育をリードする当機構の職員には、今日の青少年の課題を的確に把握し、解決に向け積極的に取り組む力が求められます。その力は、機構職員としての専門性に加え、課題意識に基づく向上心とチャレンジ精神が基盤となります。

次世代のリーダーとなる皆さんも、我が国の将来を描く仕事に、私たちと共に取り組んでいきましょう。

青少年機構について

目的

国立青少年教育振興機構は、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年を巡る様々な課題に対応するため、青少年に対し教育的な観点から、より総合的・体系的な一貫性のある体験活動等の機会や場を提供するとともに、青少年教育指導者の養成及び資質向上、青少年教育に関する調査及び研究、関係機関・団体等との連携促進、青少年教育団体が行う活動に対する助成を行い、もって我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。

組織

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立オリンピック 記念青少年総合センター

都市型の青少年教育施設として、青少年及び青少年教育指導者等の研修及び体験の場と機会を提供しています。
(全国1か所)

国立青少年 交流の家

ボランティア活動や就労体験といった交流体験を中心とした教育プログラムの企画・実施を行っています。
(全国13か所)

国立青少年 自然の家

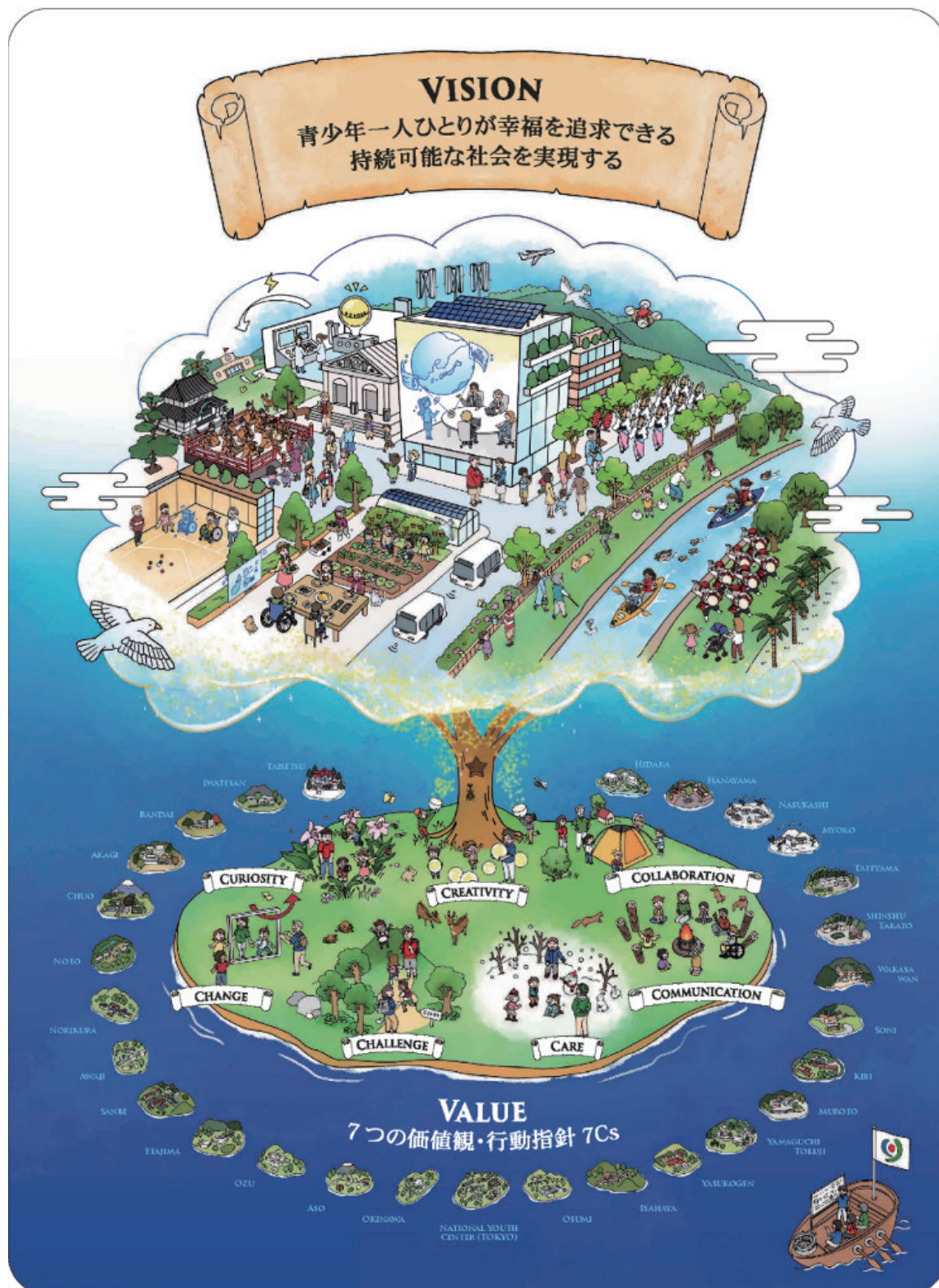
野外活動や環境学習といった自然体験を中心とした教育プログラムの企画・実施を行っています。
(全国14か所)



(写真：国立曾爾青少年自然の家)



※施設名をクリックすると各施設ウェブサイトがご覧いただけます



1. 教育事業

青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成事業を実施しています。

(1) 青少年教育に関するモデル的事業の推進

① 実践研究事業

関係機関・団体や公立青少年教育施設等、大学の研究者等と連携した上で実践研究事業を全地方施設で実施しています。

事例 みんなの登山物語

～登山を通して脳力を鍛えよう～

●施設名：国立大雪青少年交流の家

●参加者：小学校5・6年生23名

本事業はオンデマンドによる事前研修、2泊3日の本番と2回に分け、青少年教育研究センターと連携し、体験活動で得られる教育的効果と「探究力」向上との関連を検証するため、今まで学校で学んだ知識や経験を関連付けながら、登山の準備や実践を行うことにより、今後の学習における探究力を高める一助とすることを目的に実施しました。

事業を通して、登山の知識や学校で学習した知識を活用することで、小学生の力でも登山を行うことができ、学校での既習事項をもとに、等高線や縮尺を活用して、地形図から実際の距離や高度について考えることができるようになりました。



② 特色あるプログラム事業

地域の教育的課題に対応したプログラムを推進するため、特色あるプログラム事業を全地方施設で実施しています。

事例 森林環境学習「みどりの学習」

●施設名：国立妙高青少年自然の家

●参加者：計952名

妙高市では、小学生を対象に総合的な学習の時間等で上越森林管理署などと連携し、森林の大切さや環境保全の必要性を学ぶ「みどりの環境学習」を実施しています。当施設でも関係機関と連携し、妙高戸隠連山国立公園内にある妙高山(2,454m)の麓に広がる大自然を活用したプログラムを森林環境学習「みどりの学習」と位置付け、妙高市が実施する「みどりの環境学習」と共同して推進を図っています。

令和5年度は、夏に行った「下草刈り体験」で出た枝木などを材として「秘密基地づくり」や「木の実クラフト」、「薪拾いと野外炊事(親子活動)」などの活動につなげるプログラムをはじめ様々なプログラムを実施しました。



③ 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造できる高校生の育成を目指し、高等学校の「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れたプログラムとなっています。

事例 地域探究トライアル「オリエンテーション合宿(高校生キャンプ)」

●施設名：国立信州高遠青少年自然の家

●参加者：高校生9名

自然の家周辺の伊那谷地域では、山国でタンパク質が手に入りにくかったことから古くから「昆虫食」が根付いてきた地域です。今回はこの「昆虫食」をテーマに県内外の高校生が2泊3日のオリエンテーション合宿に参加しました。

フィールドワークでは、地域で最先端技術を駆使して食用コオロギの養殖を行っている会社を見学し、現在の地球規模での人口動態や食糧危機について学び、昨今、なぜ昆虫食が注目されているのかを学びました。その後は実際に地域の川で伝統漁法を用いて捕られたザザムシを活用して、ふりかけ開発・販売をした地元の高校生たちと意見交換をしました。



(2) 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の推進

青少年を取り巻く今日的課題に対応するため、企画の段階から専門機関等と連携し、特定の状況下にある青少年に対する体験活動事業を実施しています。

(3) グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

国内外の関係機関・団体等と連携して、青少年や青少年教育指導者等の相互交流を行う事業、青少年の異文化理解を促進する体験型の交流事業を実施しています。

(4) 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、安全管理をはじめ、質の高い指導者を養成することが必要であることから、国公立の青少年教育施設や青少年教育団体等の指導者を対象とした研修事業や青少年指導者になるための養成研修等の事業を実施しています。

(5) 青少年の体験活動等の重要性に係る普及・啓発

青少年の体験活動や読書活動、基本的な生活習慣等の重要性について普及・啓発を行う事業を実施しています。

(6) 子供の貧困対策

近年、「子供の貧困対策に関する大綱」や「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」が策定され、子供の貧困に対する取組が政府全体で進められています。

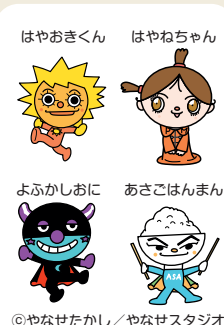
当機構においては、子供たちの生活習慣の確立や体験活動の充実のため、①「生活・自立支援キャンプ」、②子どもゆめ基金による支援、③学生サポーター制度の3つの事業を行っています。

「体験の風をおこそう」運動



当機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を青少年団体と連携して進めています。

「早寝早起き朝ごはん」国民運動



子供たちの健やかな成長には、「早寝早起き」をすることや「朝ごはん」を食べることなどの基本的な生活習慣を身に付けることが重要です。当機構では、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の事務局を運営し、この国民運動を積極的に推進しています。

2. 研修支援

学校や青少年団体、青少年教育関係者等が、目的やねらいに応じた主体的で効果的な活動を行うことができるよう、全国28 か所にある教育施設において広く学習の場や機会を提供し、研修目的達成に向けた、より効果的なプログラムの提案や教育的指導・助言等を行っています。また、社会性や規則正しい生活習慣を身につけることができるよう、共同での宿泊や朝夕のつどいの場や、標準生活時間を設けています。

研修目的の達成に向けた教育指導・助言

初めて研修を行う団体、これまで以上に研修効果を深めたい団体等、利用団体のニーズに合わせた効果的な研修が実施できるよう教育的指導・助言を行っています。

①効果的な研修計画策定のための支援 ②指導者等の指導力向上のための支援

活動プログラム例

・登山・ハイキング

自分の能力を最大限に発揮することで達成感を味わうことができます。

また、自然を観察しながら森を散策することで豊かな感性を育てることもできます。

・沢登り・沢あそび

源流の探検や、水辺の生き物観察などを通して、自然の中で感性を育み、環境を大切にできる態度等を養うことができます。

・カッター

10～20人ほどでオール（櫂）を漕いで進む艇のことで

す。仲間と協力することの大切さを学んだり、全力を出し切ることで大きな達成感を得ることができます。

・文化・芸術体験

貝殻や枝木を使った写真立て作り、和紙工芸、化学おもちゃ作り等のクラフト活動は創造性を豊かにし、感性や表現力を養うことができます。また、地域と連携した歴史・文化学習等を実施することもできます。

地方教育施設の主な設備

宿泊施設／研修・会議室／野外活動施設／
キャンプ場・野外炊事場 他
※施設により多少異なります



3. 調査研究

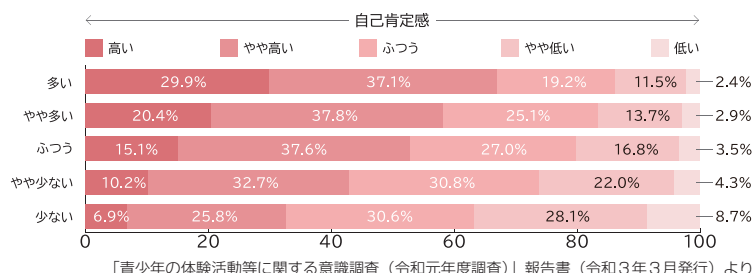
青少年教育に関する基盤的及び課題別の調査研究を行い、その成果を広く提供・活用することにより青少年教育の振興を図っています。

〈主な調査結果〉

○自然体験や生活体験、文化芸術体験が豊富な子供、お手伝いを多く行っている子供は、自己肯定感が高く、自律的行動習慣や探究力が身についている傾向があることがわかりました。

自然体験

自然体験と自己肯定感の関係(小4～小6、中2、高2)



「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）」報告書（令和3年3月発行）より

4. 子どもゆめ基金事業

未来を担う夢を持った子供の健全育成を推進するため、民間団体が実施する自然の中でのキャンプや科学実験教室等の体験活動、絵本の読み聞かせ会等の読書活動、子ども向け教材を開発・普及する活動への支援を行っています。

令和5年度 申請・採択状況（一次募集・二次募集）

活動分野	申請件数	採択件数	採択率	交付決定額(千円)
子どもの体験活動	3,486	2,901	83.2%	1,210,043
子どもの読書活動	352	309	87.8%	129,963
教材開発・普及活動	27	12	44.4%	75,657
合計	3,865	3,222	83.4%	1,415,663

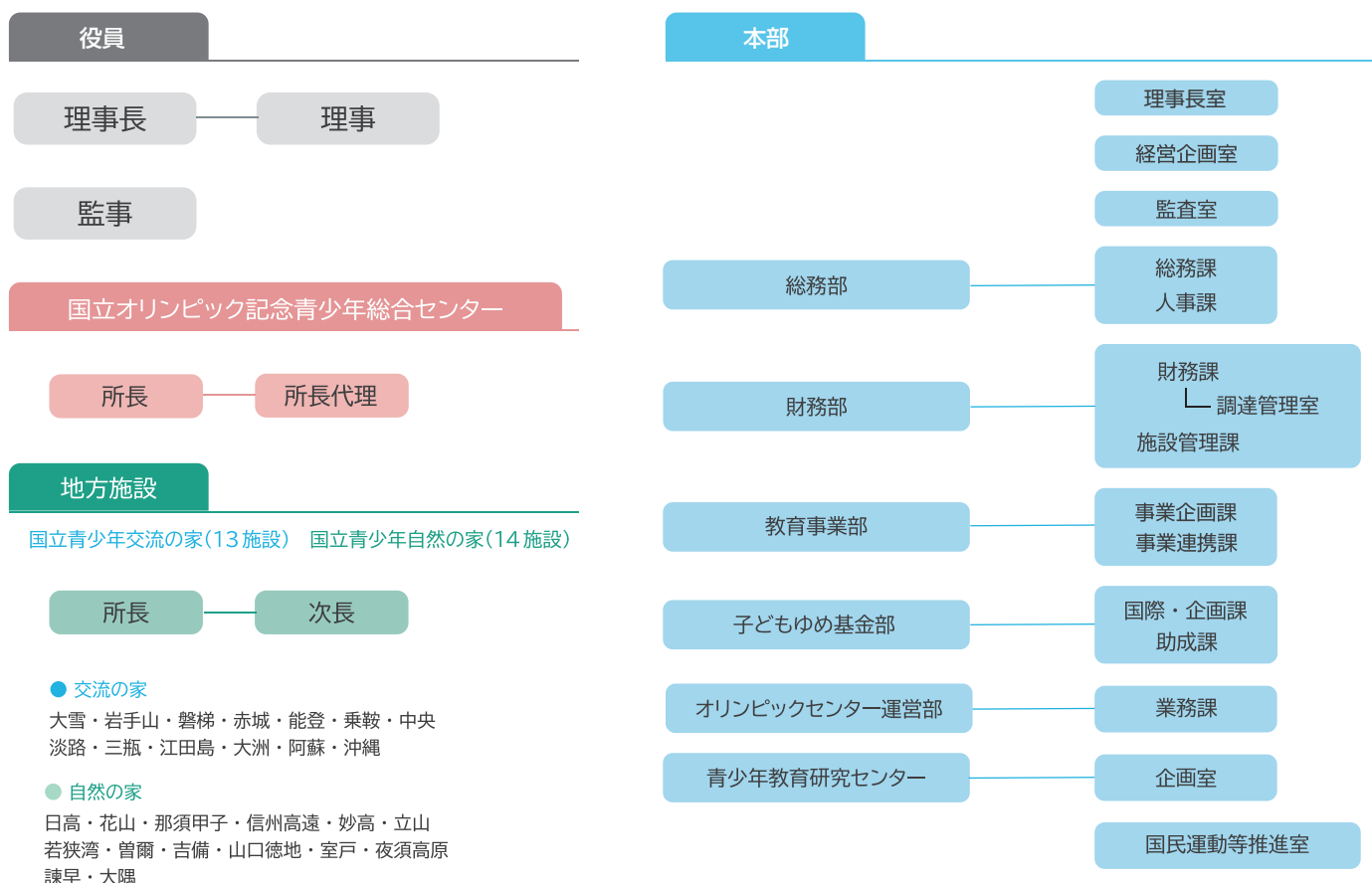


キッズ&ジュニアサイエンス
～薬の不思議編～



見えない見えにくい
子どもと本をつなぐ

組織図



求める人物像

- 我が国の青少年教育をリードする気概をもち、常に向上心とチャレンジ精神をもって何事にも取り組める人
- 時代の変化を敏感にとらえ、多様な視点で柔軟に物事を考えることができる人
- 機構職員としての専門性を高めるとともに、自身の将来についてのビジョンを描くことができる人
- 課題意識をもって主体的に行動し業務を遂行できる人
- 笑顔で挨拶、そして思いやりの心をもって積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる人



キャリアパス

勤務成績や年齢等により、図のとおり上位ポストへと順に昇任していくことになります。
人事異動は、組織の活性化と人材育成の観点から、約2～3年ごとにあり、様々な業務を経験します。



※キャリアパスは、イメージであり、各人の経験、希望及び勤務成績等により個人ごとに異なります。

小松 真

本部総務部人事課
給与係長



▶ 現在どのような仕事をしていますか？

機構で働く職員の給与支給、採用者の給与決定、各種手当の認定や人件費の管理に関する業務を幅広く行っています。機構で働くすべての人を裏で支える大切な仕事です。

▶ 今後どのような職員になりたいですか？

事業系と管理系の両方の業務経験と、地方施設での勤務経験を生かして、機構で働く職員が「ここで働けてよかった」「この先もここで働きたい」と思える人事制度・運用の実現に貢献できる職員になることが目標です。

▶ 機構職員を目指す方へのメッセージ

機構の仕事は、子供の成長に関わることでできるやりがいのある仕事です。青少年教育のナショナルセンターとして、全国に施設を有する機構だからこそできるダイナミックな仕事を一緒にしてみませんか。

ある1日の仕事のスケジュール

9:30	始業	メールのチェックと今日やるべき業務を確認します。
10:00	問い合わせ対応	各種申請や他部署からの問い合わせに対応します。
12:00	休憩	同僚とランチ
13:00	打合せ	経営企画や財務の担当者と打合せをおこないます。
15:00	資料作成	各種会議の資料作成を行います。
17:00	事務業務	書類の決裁や事務処理を行います。
18:15	終業	明日やるべき業務を整理して退勤します。

こちらもぜひご覧ください↓

「国立青少年教育振興機構 採用案内」

YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@NIYE-saiyo>

「先輩職員の声」動画を掲載しています。(随時更新)



森田 智里

国立沖縄青少年交流の家
事業推進係員



▶ 現在どのような仕事をしていますか？

事業推進係では、電話・メール・窓口対応や資料・掲示物等の作成、更新など、利用者対応や事務業務を中心にを行っています。また、利用者が海の活動をするにあたり、海上での安全監視や活動のサポートを行っています。

▶ 機構職員を志望した動機を教えてください

全国各地の自然豊かな地域に、28施設を有する国立の教育機関として、日本の自然や文化、歴史を活かした様々なフィールドで展開している体験プログラムに魅力を感じ、当機構を志望しました。

▶ 休日はどのように過ごしていますか？

離島生活を満喫中です！当施設が位置する渡嘉敷島は、海が綺麗でサンゴ礁や多くの生き物を身近に観察できます。夏はウミガメ、冬はクジラと会うことができます。地域の青年会にも所属し、沖縄の伝統文化であるエイサーを練習しています。

ある1日の仕事のスケジュール

8:30	始業	利用者の動向や業務内容、気象状況や船舶運航状況、メール等の共有事項などを確認します。
8:45	退所手続き	退所する団体の請求書発行や、アンケート処理等を行います。
9:30	清掃チェック・清掃	宿泊部屋の点検・清掃を行います。
10:30	利用者対応	メールや電話対応、利用に係る書類の処理など、利用者へは丁寧で速やかな対応を心がけています。
12:00	昼休憩	海と沖縄本島が見える事務室でご飯を食べてからのんびりとしています。
13:00	海洋研修対応	海洋研修のプログラムがある場合、水上バイクやレスキューボードを使用し、海上から利用者の安全監視を行います。活動のエリアは、その日の天候や海の状況に応じて専門のライフセーバーや職員と相談し決定します。
15:30	片付け・点検	活動で使用した道具の片付けや点検を行います。
16:30	事務業務・利用者対応	利用者対応をしたり、広報や掲示用の資料作成や、SNSの更新等の事務作業を行います。
17:15	終業	係内共有事項の引継ぎ、また翌日の業務内容を確認し、帰宅します。

採用情報

業務内容

本部や施設における様々な仕事を通して、青少年教育の振興及び青少年の健全な育成を図るための活動、そしてそれらを支える組織運営を行います。多様な業務があり、大きくは次のように分けられます。

■ 教育事業業務

教育事業（企画事業・研修支援・連絡協力促進事業・調査研究・国際交流事業等）の企画・実施及び連絡調整等

■ 助成事業業務

本部の助成業務に係る企画・立案・管理及び調査、助成金の交付に関する業務および助成事業の審査等

■ 管理業務

総務・情報システム・人事・広報・財務・施設管理及び連絡調整等

勤務条件・福利厚生

■ 給 与

- ・初任給 月給 220,000 円（大学卒）
経歴等によって決定されます。また、勤務場所によって、これに地域手当が加算されます。
- ・諸手当 扶養手当、住居手当、通勤手当他
- ・昇 給 年 1 回
- ・賞 与 年 2 回（6 月と 12 月）

■ 勤務地

機構本部（東京都渋谷区）又は全国 28 か所の青少年教育施設となります。

■ 勤務時間

- 9：00～17：45（実働 7 時間 45 分）
- ※職種や勤務場所によってはこれと異なる場合があります。

■ 休日休暇等

- ・「機構職員勤務時間、休暇等規程」に基づく 4 週 8 休、祝日、年末年始
- ・年次有給休暇、産前産後休暇、介護休暇、リフレッシュ休暇、ボランティア休暇、子の看護休暇、結婚休暇等
- ・介護休業、育児休業

■ 各種保険

- ・健康保険・年金（文部科学省共済組合）
- ・雇用保険
- ・労災保険

■ 共済事業

- ・給付（出産等）、積立貯金、貸付等各種の福祉事業
- ・国家公務員共済組合連合会の直営病院、宿泊施設等

■ 仕事と育児等の両立支援

職員の仕事と育児、介護、不妊治療の両立を支援するための勤務時間、休暇制度の整備のほか、仕事と育児の両立に関する相談窓口や相談員を配置するなど、男女問わず仕事と育児等の両立を支援するための取り組みを行っています。

選考案内等

国立青少年教育振興機構職員の採用は、当機構職員採用試験及び国立大学法人等職員採用試験から行います。

国立青少年教育振興機構職員採用試験

【概要】

機構が独自に実施する試験

【受験資格】

年齢が概ね 30 歳までの者

【選考プロセス】（予定）

- ・受付（令和 7 年 4 月上旬～6 月上旬）
- ・第一次試験 書類選考・適性検査（6 月中旬～下旬）
- ・第二次試験 面接選考等（7 月上旬）
- ・最終選考（7 月下旬）、合格（7 月下旬）

【試験情報】

上記の試験のほか、即戦力となる職員の採用を目的とした経験者採用試験の概要などの最新情報は、機構採用情報 HP をご覧ください。

<https://www.niye.go.jp/about/recruit.html>

国立大学法人等職員採用試験

【概要】

国立大学法人及び独立行政法人等が合同で実施する試験で、関東甲信越など 7 つの地区で実施

【受験資格】

平成 7 年（1995 年）4 月 2 日以降に生まれた者

【選考プロセス】

- ・受付（令和 7 年 5 月 8 日 10 時～5 月 22 日 17 時）
- ・第一次試験 全試験区分共通の教養試験（6 月 29 日）
※二次試験以降は一次試験合格者を対象に各法人が実施
- ・第二次試験 面接選考等（8 月中旬）
- ・最終選考（8 月下旬）、合格（8 月下旬）

【注意事項】

採用地区は、関東甲信越地区を選択してください。他地区を選択した場合は、当機構第 2 次選考を受験することができません。

【試験情報】

最新情報は、国立大学法人等職員採用試験 HP をご覧ください。<https://ssj.adm.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構 総務部人事課 令和 7 年 3 月発行
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 TEL 03-6407-7642

各種情報はこちら➡ 国立青少年教育振興機構ホームページ
国立青少年教育振興機構公式 YouTube チャンネル
国立青少年教育振興機構 Facebook

<https://www.niye.go.jp/>
<https://www.niye.go.jp/youtube.html>
<https://www.facebook.com/niye.seishounen>